

令和４年度 東村山市立学校 自己評価シート【２月】										東村山市立久米川東小学校 校長 芦沢 茂樹											
学校の教育目標 (育成を目指す資質・能力)					◎考える子ども ・やり抜く子ども ・協力する子ども ・思いやりのある子ども					その他 特記事項											
目指す学校像（ビジョン・ミッション） 個性輝き、笑顔つながる 楽しい久米川東小学校 久米東PB 誇りと信頼 久米東らしさ																					
【目指す学校像】					【目指す教師像】					【目指す児童・生徒像】											
① 自分の良さに気付き伸ばすとともに、友達の良さを認め合える ② 分かった、出来た笑顔があふれる ③ 人と人、心と心がつながる笑顔があふれる ④ 学ぶのが楽しい 学校生活が楽しい 行くのが楽しい学校					① 児童の良さを認め、伸ばすことができる ② 分かる授業の実現 ③ 人とのかわわりを大切にした学級経営 ④ 楽しいと思える授業、学校づくり					① 自分の良さをわかり、相手の良さも認める ② 進んで学習に取り組む ③ 進んでコミュニケーションを図ろうとする ④ 学校が楽しいと感じる											
領域	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	取組指標（教職員の取組）	取組自己評価				成果指標（児童・生徒等の姿容・成果）	成果自己評価				成果指標（保護者の理解・成果）	成果自己評価				中間申告（分析・修正案）	最終申告（分析・改善策）	
					6月	11月	2月	評語		6月	11月	2月	評語		6月	11月	2月	評語			
学習指導	・個別最適な学習を実現する。	・ＩＣＴ機器の効果的な活用を進める。	・全教科においてＩＣＴ機器を活用し、探究的な学習及び協働的な学習を行うことで主体的に学習に取り組ませるとともに、他者の考えを取り入れる意識を高める。	・各教科、単元において、タブレットの活用を計画し、ＩＣＴを活用した授業改善プランを作成する。 ・自己申告及び教職員調査で活用状況を把握し、授業改善を図る。	目標 70%	90%	100%	A	・児童アンケート、「各教科で、タブレットを効果的に活用している」の項目で、肯定的評価を８０％以上とする。	目標 60%	70%	80%	A O	・保護者アンケート、「児童はタブレットを積極的に活用している」の項目で、肯定的評価を８０％以上にする。	目標 80%	80%	80%		・タブレットの活用について、各学級で進んでいる。教員向け研修も定期的に実施しており、利用から活用にレベルアップしていきたい。	・タブレットの活用が進んだ。効果的な活用、全学級、全教科、全単元での活用を進めていくため、指導計画の活用、ＯＪＴの実施を進めていく	
	・児童に身に付けさせたい力を明らかにして、基礎基本の確実な定着を図る。	・授業のＵＤ化を進め、基礎基本の確実な定着を図る。	・毎時間の学習目標を児童に明確につかませるための導入の工夫を行い、学習のふりかえり、まとめを確実に行うことで、授業が分かったかどうか児童にも明確にする。	・１単位時間の学習において、めでの提示、学習の見通し、振り返りを確実に学習、児童の学習意欲、定着を進める。	目標 90%	90%	100%		・児童アンケート、「学習の終わりに、振り返りを行っている」の項目で、肯定的評価を８０％以上とする。	目標 80%	80%	80%		B	・保護者アンケート、「学習の終わりに１時間の振り返りを行っている」の項目で、肯定的評価を８０％以上にする。	目標 80%	80%		80%	・めあて、流れ、振り返りについて、多くの教員が意識している。児童に明確に伝えるとともに、保護者にも学校日より、学年日より等で伝えていく。	・めあての提示、学習の流れの提示、振り返りについて多くの教員が意識して指導を進めている。保護者にも学校日より、学年日より等で伝えていく
	・自分の考えを進んで表現しようとする児童の育成のための指導法改善を進める。	・校内研究を通して、自の考えを進んで表現しコミュニケーションをはかろうとする児童を育成する。	・教育委員会の指導をいただきながら、校内研究の充実を図り、ＣＬＩＬを意識したコミュニケーション能力の向上を図る。	・ＣＬＩＬを意識し、児童の伝えたい思いを高め、タブレットを効果的に活用し、英語でのコミュニケーション能力を高める。	目標 80%	80%	90%	A	・児童アンケート、「他者と進んでコミュニケーションを図ろうとしている」の項目で、肯定的評価を８０％以上とする。	目標 80%	80%	90%	A O	・保護者アンケート、「児童はＳＤＧｓを自分事ととらえ、解決策を考え、進んでコミュニケーションを図ろうとしている」の項目で肯定的評価を８０％以上。	目標 80%	80%	80%		・教師、児童とともに、目標を達成している。学校日よりや学年日よりＨＰなどをさらに活用し、保護者にも活動内容を伝えていく。	・東京都教育委員会学校表彰、教育研究団体からの文部科学大臣賞受賞と、本校研究について評価いただいた。次年度通常の教育課程の中に位置づけていく	
生活指導・進路指導	・不登校、いじめの未然防止、早期発見、解決を図る。	・児童の問題について早期に対応するため、定期的な会議の実施や確実な報告を意識させる	・いじめ防止授業、居場所づくりに資する取組を実施する。 ・学校いじめ防止対策委員会、学校不登校対策委員会を月毎学期開催し組織的な対応を図る。	・いじめ、不登校の未然防止及び早期発見のため、組織的な対応を図る。 ・自己申告及び教職員調査で対応状況を把握し、組織改善を図る。	目標 70%	90%	100%	A	・児童アンケート、「いじめは、何があっても絶対にいけない」考える児童を９０％以上にする。	目標 70%	80%	90%	A O	・保護者アンケート、「学校はいじめ防止、不登校対策に取り組んでいる」の項目で、肯定的評価を８０％以上にする。	目標 80%	80%	80%			・いじめ対応、不登校対策委員会を組織、機能させている。引き続き早期発見、早期解決に取り組んでいく。	・いじめ対応、不登校対策委員会が機能していた。会の内容を全教員にも周知し共通理解を進めていく
	・いのちの教育を推進し、自分自身の良さを実感できる児童を育成する。	・教育活動のあらゆる場面で児童の良さを認め励ます場面を設定し、自己有用感を高める。	・道徳授業を要とし、全教育活動を通して道徳教育の充実を図り、児童が、自分の良さを実感できる教育活動を日常的に推進する。	・学習や生活場面で児童の良さを認めたり、帰りの会で相互に認め合う場面を設定したりして、児童の自己有用感を高める。	目標 90%	90%	100%		A	・年３回実施するアンケート調査で、「自分にはよいところがある」の項目で、肯定的な評価を９０％以上にする。	目標 90%	95%		100%	A	・保護者アンケート、「学校は児童の良さを認めている」の項目で、肯定的評価を８０％以上にする。	目標 80%			80%	80%
学校運営	・保護者・地域との連携を図り、信頼される学校を築く。 ・学校と地域の協働活動を推進し、学校を核とした地域づくりに貢献する。	・学校・学年・学級の経営方針や教育活動を保護者・地域に伝え、連携協力を行う。 ・地域や関係機関との連携を図り、人的資源の確保を目指す。	・学校だより、HPの充実を図る。 ・学校運営協議会制度を活用し、学校と地域の協働活動を推進する。管理職と地域コーディネーターの連携を深め、全学年で地域人材を活用した教育活動を実施する。	・学校HPを毎日更新し、教育活動を発信する。 ・地域人材を活用し取組を進め、教育内容の充実を図る。 ・自己申告及び教職員調査で対応状況を把握し、組織改善を図る。	目標 70%	90%	100%	B		目標 50%	60%	70%	A O	・保護者アンケート「学校は必要な情報を発信してる」の項目で肯定的評価を８０％以上にする。	目標 80%	90%	90%		・保護者にも一定の評価をいただいた。CMSをさらに活用し、魅力あるHPを作成していく。	・１日のアクセス数が少しずつ増えてきている。今後も魅力あるHPを作成していく	
				・自己申告及び教職員調査で対応状況を把握し、組織改善を図る。	目標 70%	80%	90%		B	・児童アンケート「地域の行事に参加している」の項目で、肯定的評価を７０％以上にする。	目標 50%	60%		70%	B	・保護者アンケート「学校は地域人材を活用した教育活動を充実させている」の項目で、肯定的評価を７０％以上にする。	目標 50%		60%	70%	・地域コーディネーターと連携した活動が進みつつある。児童の地域行事参加について、担任からの働きかけを進める。
特別活動・その他	・一人一人が、自分のできる「わたしたちのSDGs」を進める。 ・「わたしたちのSDGs」を児童、家庭、地域へ広める。	・新たな特色ある教育活動「KUMEHIGA 7 Colors」を全教員で分担し、組織的に推進する。	・職員会議で新たな特色を周知し、全教員が分担して組織的に推進していくこと、各学年、教科で進めていくことを確認する。	・特色ある教育活動主任、7つの特色の主任を指名し、8名が中心となり、推進する。 ・自己申告面接において、進捗状況の確認を行う。	目標 70%	90%	100%	A		目標 60%	70%	80%	A	・保護者アンケート「学校は特色ある教育活動を進めている」の項目で、肯定的評価を７０％以上にする。	目標 60%	70%	70%		・教育目標、オリパラレガシー、SDGsと関連整理した特色を示すことができた。掲示板を作成し、活動報告を続けていく。	・特色ある教育活動の整理、関連づけを行ったが、教員に意識をもたせることが不十分であった	
		・東村山市SDGsパートナーを意識し、各学年の指導計画に位置付け、家庭との連携を図りながら推進を図る。		・ゴール4、11、12を踏まえた授業づくりを行い、年間指導計画を作成する。 ・自己申告及び教職員調査で対応状況を把握し、職員会議で周知する。	目標 90%	100%	100%		A	・児童アンケート、「持続可能な社会づくりに向けて取り組んでいる」の項目で、肯定的評価８０％以上とする。	目標 70%	80%		80%	A O	・保護者アンケート「学校は持続可能な社会づくりに向けて取り組んでいる」の項目で、肯定的評価を８０％以上とする。	目標 60%		70%	80%	・教員がSDGsパートナーを意識し、授業や行事を進めている。保護者にも一定の評価をいただくことができた。

前年度の学校評価を活かして、４月時点でビジョン・ミッション、各目指す像、特に重点となる各目標、方策、指標を設定する。提出時期に応じて、その時点での達成度を％で自己評価欄に記入する。自己評価の評語は最終段階で、目標の５割未満はC、８割未満はB、10割未満はA、目標超えはO(over)の標語を記入する。